



継続と改革

例会日 毎週水曜日 12:30～ 例会場 ホテルシーズン日南

住所 日南市園田3-11-1 TEL 0987-22-5151 FAX 0987-22-9588

会長 黒岩久登

地域社会の経済発展月間・米山月間

第3351回例会	No.14	2023. 10. 18	晴れ
点鐘・国歌・ロータリーソング	12時30分	「それでこそロータリー」	
四つのテスト	西島元利 君		
ゲ ス ト	日南高等学校 根木ひなたさん 清水里美先生 日南振徳高等学校 坂東大士朗君 村上仁寿先生 日南看護専門学校 坂元小華さん 宮崎福祉医療カレッジ 力衛美月さん 花盛和也先生 日南学園高等学校 新屋敷愛音さん 松田怜央菜さん 古田佳栄先生		
例会行事	わかば奨学金授与式		

会長時間

先週に引き続き水俣病の判決についての話をします。すべての原告を水俣病と認めた大阪地裁判決は、理不尽な「線引き」に翻弄される患者たちに救済の道を開いた。「この日を待ちわびていた」。心身の苦痛に耐えながら生活する被害者らは喜びをかみしめるとともに、国による厳格な救済範囲の早急な見直しを求めている。

9月27日午後3時過ぎ大阪地裁二階大法廷。「原告はいずれも水俣病に患っている」。裁判長が国の賠償責任も認めた判決要旨を読み上げると、原告たちや弁護団はうなずきながら内容に耳を傾けた。閉廷後、満席になった傍聴席から一斉に拍手が起きた。原告128人の一人として名を連ねた前田芳枝さんも法廷で裁判長の言葉を聞き漏らさないよう目を閉じ、その瞬間を迎えた。「やっと認められた」うれしきやつらかった過去の記憶が交錯し、涙が止まらなかった。

前田さんは不知火海を望む鹿児島県阿久根市の沿岸部から1キロほどの集落で生まれ育った。小さいころから、メチル水銀を含む排水が流出した熊本県水俣市の行商から魚介類を買って食べた。手足のしびれを自覚するようになったのは10歳のころだ。小学校の運動で走り出すとすぐ転び、段差がない場所でもつまづくことが増えた。症状に悩まされたが、理由は全く分からなかった。15歳の時、就職をきっかけに大阪に移り住んだ。しかし、生活環境が変わっても症状は治まらない。夫と結婚し、子供も授かったが、家庭に満足に料理を作ることもできなかった。情けなさとしみが募る日々を過ごした。転機になったのは2013年。兄から「昔から具合が悪いのであれば、病院を受診してみたらどうか」と声をかけられた。

間もなく水俣病と診断された。もちろん水俣病の存在は知っていたが、原因企業のチッソの工場があった熊本県の住人の話で自身とは無縁だと思いこんでいた。救済を求めて動き始めたが、2009年に施行された水俣病被害者救済特別措置法（特措法）の申請期限は過ぎていた。前田さんの出身地は特措法の対象地域からもわずかに外れている。途方に暮れ、すがる思いで「ノーモア・ミナマタ」二次訴訟に原告として加わった。

大阪地裁で審理された大阪訴訟では2022年9月達野ゆき裁判長が自ら水俣市などに足を運び、不知火海の沿岸を視察した。この日の判決に大きな期待を寄せていたという前田さん。大阪市内で開かれた記者会見で、「若いころから手が震える自分を恥ずかしく思い、周りに隠して生きてきた。裁判所が国の不当な線引きを認めたらうで、患者であるといってくれて本当にうれしい」と語った。

水俣市出身で原告の松尾厚子さんも会見に臨み、「同じように長い間苦しんでいるのに、患者と認められず救済の網から漏れている人がまだいる。各地の同種訴訟で、被害者全員が救済されることを願っています」

す」と声を詰まらせた。「大きな光が見えてきた」。9月27日の大阪地裁判決に同様の訴えを起こしている各地の原告や患者は喜びをかみしめ、控訴せず救済をするよう国に求めた。

新潟水俣病第5次訴訟の原告らは新潟市で記者会見。原告団長は「本当に大きな光が見えてきた。来年春には必ず新潟、熊本でも全面勝訴の形で水俣病を終わらせたい」と力を込めた。弁護団の弁護士は「原告全員が救済される結果となり、扉がこじあけられた」と評価した。

胎児性水俣病患者の松永さんは、他の患者らと勝訴の速報を目にし「うれしい」と笑顔を見せた。日常生活に介助が必要で、健康に不安を抱える日々。「国は控訴しないでほしい。未認定の水俣病患者はまだいっぱいいる。これで終わりにせず、ちゃんと健康調査をやってほしい」と訴えた。

大阪公立大学の除本環境政策論教授は「国は特措法による救済対象を線引きし、申請期間も短くしたため多くの救済されない被害者がでた。その誤りを司法が厳しく指摘した。重要な意味を持つ判決だ。国はまず特措法の線引きをあらため、速やかに申請の受付を再開すべきで、患者の認定基準の見直しも視野に入れて、判決に沿って広く被害者を救済することが必要だ」と語っています。

ここで判決の要旨を紹介します。主文・「国と県、原因企業チッソは原告一人につき損害賠償金275万円を支払え。ただし、うち6人は国と県が賠償責任を負う時期より前にメチル水銀に暴露しており、チッソにのみ支払い義務がある」。原告の損害については、「原告128人全員が水俣病に罹患し、健康被害によって精神的被害を被ったと認められる。手足のしびれ等の自覚症状により日常的に身体的苦痛を感じているほか、手先の細かい作業ができない、物を取り落とす、つまずきやすい、けがややけどに気づきにくい、食事を口からこぼすなど、日常生活や職業上のさまざまな支障を生じている場合が多い」と認定しています。

国と県の責任については、「国は多数の水俣病患者と死亡者の発生を認識し、原因物質の排出源を認識しうる状況にあったが、チッソに対し、工場排水の処理方法の改善や施設使用停止を命じる規制権限を行使しなかった。県も漁業調整の権限を行使せず、両者ともにチッソと連帯して責任を負う」としています。除斥期間については、「民法上の損害賠償請求権が消滅する20年の除斥期間の起算点は、原告らが（地元医師らが作成した）共通診断書に基づき、水俣病と診断された時だ。原告らの中に経過したものはいない」としています。自国民が苦しんでいるのですから、国と県には早急に対応をお願いしたいと思います。

ここまでは、2週間前に作成した文章ですが、その後チッソが四日付けで、国と熊本県も11日付けで大阪地裁判決を不服として控訴しました。理由として「過去の判決と大きな相違がある」としています。国は、今回の判決を受け入れれば、感覚障害とほかの症状の組み合わせを原則とした1977年判断条件による患者認定の枠組みに影響を与えかねないと判断。新潟、東京、熊本の各地裁で同種の訴訟が係争中であることも考慮したとみられる。

国の控訴理由について環境省は、大阪地裁判決が指摘したメチル水銀への暴露の状況と、水俣病発症の因果関係などに関し「国際的な科学的知見や最高裁確定判決の内容と大きく相違する」とする文書を公表した。伊藤環境大臣は「関係省庁と協議を重ね、判決内容を精査した結果、上訴審の判断を仰ぐ必要がある」と述べた。熊本県の蒲島知事も「過去の判決と大きな相違があると判断した。苦渋の決断だ」と説明した。水俣病大阪訴訟の原告側弁護団の徳井団長は記者会見し「極めて残念だ。これ以上裁判を続けるのは人道に反する」と批判。2009年に施行された特措法は約3万8千人を新たな救済対象とし、一時金を支給するなどした。一方で原則として、水俣病に関しては不知火海（八代海）周辺の9市町村の沿岸部などに居住歴があり、チッソがメチル水銀排出を止めた翌年の1969年11月末までに生まれた人などに限定した。

大阪地裁判決は、特措法の対象の地域や年代から外れた人でも、メチル水銀に汚染された魚介類をたくさん食べれば発症する可能性がある」と指摘。水銀暴露から長期間が経過した後に発症する遅発性水俣病の存在を認めた判決でした。しかしながら、今回の控訴により、被害者への救済の道のは遠ざかり、高齢の患者は生存中に救済が受けられるは不透明となってしまいました。

自国民を救済できない政府と県民を守れない熊本県。被害者の声が早急に政治家に届くことを心から祈念して今日の会長時間を終わります。

## 幹事報告

1. 事務所より、2023-24年度地区大会の御礼ならびに宮日新聞掲載記事のコピーが届いております。
2. 佐土原ロータリークラブより、「今日13日（金）より新事務局の正式稼働が始まりますとのことです。移設に伴い電話とFAXを一本化する事により、番号が変わるとの連絡がありました。新しい電話・ファックスは (0985) 72-7600

3. 公益財団法人ロータリー米山記念奨学会より「ハイライトよねやま 第283号」が届いております。
4. 地区事務所より「アフガニスタンの現状」パート2 コロキウム開催のご案内、パンフレットが届いております。

## スマイル

会長・幹事 10/14の地区大会に14名の参加を頂き、誠に有難うございました。宿泊組10名は日南RCナイトも行い大変楽しい時間を過ごすことが出来ました。

井野畑善順君 敬愛なる谷村新司様のご冥福を心よりお祈り申し上げます。アリスの大ファン

## 例会行事

### わかば奨学金授与式

#### 根木ひなたさん（日南高等学校）



この度は、日南ロータリークラブわかば奨学生として選んでいただき、本当にありがとうございます。わかば奨学生に選んでいただけたこと、そしてこのような会に参加させていただけることに深く感謝しております。

私には、地元である日南市を中心に活躍することのできる獣医師になるという夢があります。高齢者の多い日南市で訪問型の獣医師として、人と動物を繋いでいきたいという強い思いがあります。

この夢を実現するために現在、日南高校で誠心誠意勉強に励んでおり、大学への進学を目指しています。国語・数学・英語などの受験に必要な科目のみならず、他教科の学習や地元日南市の動物保護の活動についても着目し、自らの視点で問題点や新たな解決策・斬新な発想を生み出すような学習にも進んで取り組むようにしています。

動物との関わりを通して日南市をさらに活性化させることができるような人材を目指し、日々努力を重ね、精一杯成長し必ず夢を実現させます。そして将来、地元日南にたくさん恩返しができるように努めます。

繰り返しになりますが、わかば奨学生として選んでいただき、本当にありがとうございます。わかば奨学生の名に恥じないよう、一生懸命勉強に励んで参ります。

本日はありがとうございました。

#### 坂東大士朗君（日南振徳高等学校）



日南振徳高校の情報ソリューション科1年の坂東大士朗です。この度はわかば奨学金に採用していただき、ありがとうございます。

私は、子どもの頃から、キャンプに行く機会があり、宮崎の自然豊かなところが大好きです。将来、その宮崎の魅力を発信するために、県内で就職して、今学んでいる情報系の知識を活用したいです。そのためにこれからITパスポートやC言語などの様々な資格を取得したり、イベントに参加したりしてスキルアップを図りたいです。

です。

先日、宮崎・高校生プロデューサー育成合宿という、宮崎大学準教授が講師を務めるプログラムに参加しました。そこでは、企画力、行動力、決断力を身に付けるプログラムが用意されていました。そのプログラムを通じて、今ある問題を見つける力や、解決策を自分で作るなどを伸ばしました。県内各地から参加した高校生と初対面でチームを組み、協力して一つのことをやり遂げるという不安はありましたが、これまでの自分では出来なかった事を成し遂げることができたと思います。

これからも色々なイベントに参加して見聞を深めていきたいとおもいます。わかば奨学生として、今後も成績が維持できるように邁進していきたいです。

#### 坂元小華さん（日南看護専門学校）



この度は、日南ロータリークラブ「わかば奨学生」に採用していただきありがとうございます。

私の人生のモットーは、「何事にも全力で」ということです。一見、ありきたりだと感じられる方もいらっしゃるかもしれませんが、私は、この言葉を心に刻み、全力で、自分の役割を全うしてきました。

高校では、副生徒会長や学級委員長をつとめ、学校行事や学業に真摯に取り組みました。

そんな私が、看護師を目指すきっかけとなったのは、高校の時に所属していたサッカー部のマネージャーとしての経験です。ある試合中、対戦校の選手が顔から出血し、私は、応急手当をしました。翌日、顧問の先生から、「あの子は縫わなくてよかったそう。手当が早く、的確だったそうだよ。」と報告を受けました。私はこの瞬間、自分が行ったことが誰かの役に立つことができたことにやりがいを感じ、この経験が活かせる仕事に就きたいと考えるようになりました。そして今、看護師を目指し、日南看護専門学校で日々学んでいます。

学校での学びは、身体面、精神面、社会面の3側面から対象を捉え、必要な看護は何かを考え、理解し、看護師としてあるべき態度を身につけるためにも自分と葛藤することが多々あり、高校時代に夢見ていた看護師像と大きく異なる瞬間を見ることもありました。

しかし、当時思い描いていた看護師像よりも、間近で看護師という仕事を目にした現在の方が、看護師に対して、本当に、他人を思いやることができる、その人の人生に携わることができる、魅力的な仕事だと実感でき、看護師になりたいと思う気持ちがさらに強くなりました。また、同じ目標を持つ仲間たちと支え合いながら、厳しく手厚い指導をしてくださる先生方と共に、1日1日を乗り越えております。

これから、夢を実現させるために協力してくださる先生方、実習先の医療従事者の方々、患者様、家族、そして今回採用して下さったロータリークラブ関係者の皆様に感謝の気持ちを忘れず勇往邁進してまいります。



#### 力衛美月さん (宮崎福祉医療カレッジ)

この度は、わかば奨学生としての選考していただき、誠にありがとうございました。

私は、幼少期から現在まで母が祖父母の介護をしている姿を見ており、長い年月、献身的に介護する母のことをとても尊敬しております。そんな母に対して、私もできる範囲で手伝いをしてきましたが、もっと専門的に介護の勉強をしたいという思いが強くなり、宮崎福祉医療カレッジで介護の勉強をしようと思ったので本校に入学しました。

入学後は、授業で介護の専門的知識を学んだり、また、実習を通して身につけた介護技術を実践しながら、自分の未熟な部分を見つけ出しさらに介護福祉士として向上できるよう努力しています。

私は二年間、わかば奨学生として、その名に恥じぬよう学業に専念して専門的知識と技術を身につけたいと考えています。そして、わかば奨学金をいただいた感謝の気持ちを忘れることなく日々精進して、卒業後は日南市の福祉に貢献できる人材になれるよう努力してまいります。

最後に、日南ロータリークラブの皆様にご心よりお礼を申し上げ、私の決意の言葉とさせていただきます。本当にありがとうございました。



#### 新屋敷愛音さん (日南学園高等学校)

今回はこのような機会を頂きありがとうございます。私には将来の目標が二つあります。

一つ目は、小児科の看護師として働くことです。子どもは体調を崩すと精神的に不安になりやすく、特に入院している方は、友人や家族と過ごす時間が限られており、孤独や不安を感じたりすることも多いと思います。そんな中でひとりではないと安心できる環境を作ることができるように、精神面でのサポートを行いたいと思ったのがきっかけです。

子どもは大人とは違い言葉では上手く表現することが難しいため、看護師が心情を考え子どもの意思を尊重することがとても大切だと思います。私には、歳の離れた兄弟がいるのですが、突然病気になるってしまい色々な医療器具を体に付けられているのを想像することが時々あります。それは私の想像を超えるくらいの怖さや目を瞑りたくなるようなつらい現実だと思います。しかし、だからこそ、苦しんでいる子どもたちを看護師という立場で力になりたいと思うのです。自分にとって大切な人にも提供できる看護なのか、その気持ち以上に患者様にとって利益があり、親身になる存在でなくてははいけません。この気持ちを忘れないように日々を過ごしたいです。

また、高校生のときにSDGsに関するボランティアに参加した経験から、ダンボールや新聞紙を用いて、レ

クレーションを行い闘病する子どもたちに元気を与えられて、更にSDGs等世界の問題について学ぶ機会を作れる活動も行えればと考えています。入院している子どもたちに、楽しみを提供できる存在にもなれるようにこれからも色々なボランティアに参加したいと思います。

二つ目は、海外で活動できる看護師になることです。現在世界では紛争地域が増えており、テレビで、大事な人を失い、身体中に傷を負い、震えながら涙を流している人々を見る度に胸が痛みます。

しかし、私はこのことに目を背けてはいけないと思いますし、現地で傷を負い恐怖に包まれている人にまさる深い傷などないのです。私達が対象にする患者様は、けっして皆が目に見える傷だけではないのです。そんな中で、自分の身に危険をおかしてまでも患者様を救いたいという気持ちを持つ方々がいらっしやるということに尊敬の気持ちを持ち、私自身もそんな看護師になれるようになりたいです。

具体的にどのような形で活動するかはまだ模索中ではありますが、必要な技術や知識等を含め情報収集を行い、より鮮明な活動内容が見つけれられるように残りの学生生活で探していきたいと思っています。

「才能は長い努力の賜物である」この言葉を胸に私はいつも勉学に励んでいます。出会った方々の命に最大の敬意を払い、看護師という職業に誇りを持つように、将来の目標に向かって日々研鑽を重ねて参ります。

今回は自分の将来と向き合うことのできる貴重な時間を設けていただき感謝申し上げます。ご清聴ありがとうございました。



### 松田怜央菜さん (日南学園高等学校)

この度、ご支援いただきありがとうございます。

私は現在、国公立大学進学を目指しています。そのために今私が頑張っていることは、学校に無遅刻、無欠席で毎日登校することと、地域や県内のボランティア活動、学校の運営活動に参加することです。特にボランティア活動、学校の運営活動では、相手をどう楽しませるか、相手とどう関わるのかなどという人と関わることへの考え方を育むことができ、今までしたことのない経験を積むことができます。

だから、このような活動にたくさん取り組んで、そこで学んだこと、経験したことを大切にしたいなと思います。

私の将来の夢は、宮崎県内の小学校教諭になることです。目指すきっかけとなったのは、現在の社会問題でもある教員不足と収入の安定です。私は元気と明るさで児童に慕われる先生になりたいです。

これから宮崎県で活躍できる人材になれるよう頑張ります。本日はありがとうございました。



### 出席率報告

	会員数	出席免除	出席定数	HC出席	MU	欠席	出席	出席率
今週	30	8 (5)	25	21	0	4	21	84.00%
出席免除	落丸、清水、野崎、古澤、渡邊							
先取MU								
欠席	石灘、榎木田、日高、村社							

## 地区大会参加

10月14日15日の二日間シーガイヤコンベンションセンターで2730地区大会が開催されました。当クラブから14人が参加しました。参加された皆さんお疲れ様でした。

参加者 黒岩、井野畑、小玉、土屋、落丸、鬼束、田島、竹井、花盛、築瀬、石灘、入中、豊田、斉藤  
(敬称今日の)



お疲れ様です！



日南ナイト

事務局〒887-0014 日南市岩崎3-4-2 Itten 堀川ビル2F 創客創人センター内 TEL0987-22-3363・FAX0987-22-3515

会長：黒岩久登 副会長：築瀬 敦 幹事：井野畑善順 雑誌会報広報委員長：河野通郎

雑誌会報広報委員会より 原稿は、[ocame@wing.ocn.ne.jp](mailto:ocame@wing.ocn.ne.jp)まで送信してください。